

「すべての原発を廃炉にしよう！」シリーズ10

福島第一原発4号機 恐怖の解体作業？

(投稿 佐藤健太さん 組合員家族)

7月1日野田内閣は民主党の「消費増税はしない」という選挙公約を裏切り、自公との密室談合のうえ衆議院で可決させた。そして国民の大多数が反対する大飯原発の再稼働を実行した。当日、首相官邸まえでは20万人の市民が反対の声を上げた。しかし野田は「大きな音がしますね」と言ったという？国民の声を「音」としか感覚できない男が日本のリーダー（首相）とは情けない話した。



こっそり？4号機の解体作業？

こうしたなか福島第一原発4号機では、6月30日の朝から大型クレーンを使って建屋の解体工事を始めた。そのため放射性物質を含んだ粉塵が周辺に飛び、福島県の一部地域で通常数値を燃料棒の放射線量を検査する作業員はるかに上回る放射線量が観測された。さらに核燃料保管プールの冷却装置が一時止まった原因は、工事中の瓦礫が飛び散り冷却装置の配管に当たったのが原因とも見られている。下の写真は壊れた配管から水が噴出している様子が見える。

冷却装置故障！核燃料プール爆発の危機！

燃料プールには使用済核燃料が1535本以上保管されている。幸い7月1日の午後3時頃に冷却装置の運転が再開されたが、もし温度がこのまま上昇すれば爆発炎上し、福島県はもとより関東一円にまで放射性物質がばらまかれる事態も予測できた。それはチェルノブイリの10倍の放射線物質の量であり、まさに日本全体が「強制避難区域」になってしまうということだ。しかし東電・政府・マスコミは記者会見もおこなわず、またもや危機的な事態を押し隠そうとした。

